

2020年6月2日

2021年度福岡県立大学入学者選抜について（予告）

2019年12月12日に予告公表をいたしましたが、新型コロナウイルス感染症の予防及び社会的影響の観点から内容の見直しを行い、以下のように実施いたします。

1. 入試区分の変更

入試区分の名称を次のとおり変更します。

「推薦入試」 → 「学校推薦型選抜」

2. 一般選抜

大学入学共通テストにより、高等学校等における基礎的教科・科目の学習達成度を評価します。

アドミッション・ポリシーに基づく記述式試験（小論文）を課し、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を評価します。調査書等により、学力を多面的に評価します。

一般選抜前期日程・後期日程試験の配点は、以下のとおり、大学入学共通テスト（600点）、個別学力試験等（215点）の合計815点とします。

(ア) 大学入学共通テストの科目の配点

一般選抜前期日程・後期日程試験における大学入学共通テストの指定科目と配点は以下のとおりです。

教科	グループ	科目	科目選択の方法	配点			
				人間社会学部		看護学部	
				前期日程	後期日程	前期日程	後期日程
国語		「国語」		200	200	100	200
数学	①	「数学Ⅰ・数学A」		100	100	100	50
	②	「数学Ⅱ・数学B」				100	50
地理 歴史 ・ 公民		「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理、政治・経済」、「世界史A」、「世界史B」、「日本史A」、「日本史B」、「地理A」、「地理B」	左記科目のうちから1科目	100	100		
理科	①	「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」	グループ①から2科目、又はグループ②から1科目			100	100
	②	「物理」、「化学」、「生物」					
外国語		「英語」(リスニングを含む)		200 (リーディング100・リスニング100)	200 (リーディング100・リスニング100)	200 (リーディング100・リスニング100)	200 (リーディング100・リスニング100)
合 計				600	600	600	600

(イ) 個別学力試験等の配点

一般選抜前期日程・後期日程試験における個別学力試験として、アドミッション・ポリシーに基づく記述式試験（小論文）を課し、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を評価します。調査書によって、学力を多面的に評価します。

・ 調査書の配点

配点は、調査書の全体の学習成績の状況を10点、その他の記載事項を5点とします。調査書がない場合はそれに代わるものを提出することができます（例：文部科学省による「令和3年度大学入学者選抜実施要項について（通知）」に準じた文書、高等学校卒業程度認定試験の合格見込成績証明書、「調査書様式」に一般的に記載される事項に添った文書等）。

試験科目等	人間社会学部	看護学部
小論文	200	200
調査書	15	15
合計	215	215

3. 学校推薦型選抜

アドミッション・ポリシーに基づく記述式試験（小論文）を課し、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を評価します。

人間社会学部では、英語試験を課し、3技能（リーディング、リスニング、ライティング）を評価します。看護学部では、英語の資格・検定試験スコアが英語力国際指標 CEFR の「B1」レベル以上を満たす者に5点を加点します。

調査書により、学力を多面的に評価します。

学校推薦型選抜の科目の配点

学校推薦型選抜の指定科目と配点は以下のとおりとします。

試験科目等	人間社会学部	看護学部
小論文	200	200
英語	200	
英語の資格・検定試験		5
調査書・推薦書	50	50
合計	450	255

・ 調査書・推薦書の配点

配点は、調査書の全体の学習成績の状況を30点、その他記載事項を10点、推薦書を10点とします。調査書・推薦書により、本学アドミッション・ポリシーへの適合性を評価します。

4. 特別選抜（学校推薦型選抜以外）

学校推薦型選抜を除く、以下の特別選抜については、2021 年度入試での大きな変更はありません。

- ・ 社会人特別選抜
- ・ 国外就学経験者(帰国生)特別選抜（人間社会学部のみ）
- ・ 留学生特別選抜（人間社会学部のみ）
- ・ 転・編入学入試（人間社会学部のみ）

5. アドミッション・ポリシー改訂(2021年度入試から)

求める学生像（両学部共通）

1. 高等学校等で履修した教科・科目について、基礎的な知識・技能を有している。
2. 情報をもとに分析する技能を身につけている。
3. 論理的に思考し、判断することができる。
4. 自らの考えを適切に表現することができる。
5. 様々な課題について主体的に取り組む姿勢がある。
6. 多様性を尊重し、多様な人々と協働して取り組むことに意欲がある。